



## 特集

# 中学生と市長の車座会議 ざっくばらん特別編 海外派遣事業を通して感じ、 考えたこと

市では、市民のみなさんと市長が直接意見交換を行う「市長と市民の車座会議 ざっくばらん（市政懇談会）」を毎年行っています。本年度は、4～6月に市内14会場で開催しました。

今回は特別編として、林市長と海外派遣事業（以下、派遣事業）で令和元年8月19日（月）～26日（月）にアメリカ合衆国（オレゴン州ユージン市など）に派遣された中学生、派遣事業に同行した南雲前教育長と過去に派遣事業を経験して現在市内で活躍している先輩を交えて、派遣事業を通して感じたことなどを語り合ってもらいました。

東京オリンピック・パラリンピックの開催が迫るなか、これから市が国際化を進めるのに必要なことなどについても意見交換を行いました。その一部を紹介します。（以下、文中敬称略）

### 派遣事業に参加しようと思ったきっかけは？

大平 たまたま募集を知り、この先英語が必要になると思い、現地で生きた英語を聞くことで、英語を勉強するきっかけになると思って応募しました。

坂西 前年に先輩が派遣事業に参加していて、すごく楽しそう

だったのと、人生で一度は海外に行って生きた英語を聞きたいと思い、応募しました。

酒井 小学4年生から、外国に行ってホームステイなどをしたという夢がありました。いろいろ考えているときに、ちょうどこの派遣事業があり、参加したいと思いました。

青木 いろいろな国の言語に興味があって、学びたいと思っていました。人見知りでしたが、家族と離れたことになかったので、家族と離れても一人でやっていけるか試してみたかったからです。

### 派遣事業を体験して感じたことや特に印象に残ったことは？

坂西 ホームステイ先の人と多くの時間を過ごすことで、日本との違いをたくさん見られました。特に、浴槽にお湯を張らないとか、室内では靴を履いたままだと思っていたのに、ホームステイ先の家は靴を脱いで生活していたことなどに驚きました。

酒井 ホストファミリーの家には、同じ年くらいの子もがいて、その友だちも泊まりに来ていました。とても友好的だったことが印象に残っています。